

2016年度「国際交流基金地球市民賞」受賞団体決定

「ノルテ・ハポン」、「(一財)熊本市国際交流振興事業団」、「硫黄島地区会」
新たな国際文化交流のあり方を提案する福島、熊本、鹿児島 の3団体が受賞

国際交流基金は、国際文化交流を通じて日本と海外の市民同士の結びつきや連携を深め、相互の知恵やアイデア・情報を交換し、ともに考える団体に「国際交流基金地球市民賞」(以下、地球市民賞)を授賞しています。

今年度は133件の推薦・応募があり、外部有識者で構成される選考委員会による厳正な選考の結果、以下3団体を受賞団体に決定しました。

授賞式は、2017年2月28日(火)にザ・キャピトルホテル東急(東京都千代田区)で開催し、賞状と副賞200万円が受賞団体に贈られます。

<2016年度受賞団体> *以下、北から順、敬称略。各団体の詳細は資料参照。

■ノルテ・ハポン(コスキン・エン・ハポン開催事務局)【福島県川俣町、代表:齋藤 寛幸さいとう ひろゆき】

■一般財団法人 熊本市国際交流振興事業団【熊本県熊本市、理事長:吉丸 良治よしまる りょうじ】

■硫黄島地区会【鹿児島県三島村、区長:安永 孝やすなが たかし】

<独立行政法人国際交流基金について>

独立行政法人国際交流基金は、総合的に国際文化交流を実施する日本の専門機関です。「日本の友人をふやし、世界との絆をはぐくむ」をミッションに掲げ、「文化」「言語」「対話」を通じて日本と世界をつなぐ場をつくり、人々の間に共感や信頼、好意を育んでいます。 http://www.jpff.go.jp/j/about/outline/about_01.html

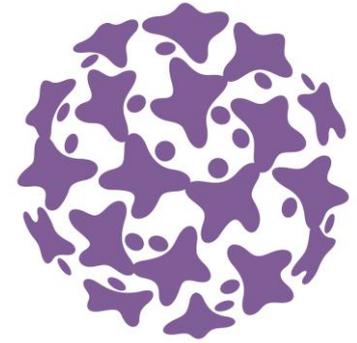
【主催者・本事業に関するお問い合わせ】国際交流基金 コミュニケーションセンター(熊倉、菅野)
TEL: 03-5369-6075 / E-mail: chikyushimin@jpf.go.jp

【広報用画像・取材に関するお問い合わせ】国際交流基金地球市民賞 広報事務局(増田、妹尾、横田)
TEL: 03-5368-0911 / FAX: 03-5269-2390 / E-mail: japanfoundation@japan-pri.jp

【補足資料①】

＜国際交流基金地球市民賞について＞

国際交流基金では、1985年に「国際交流基金地域交流振興賞」を創設して以来、全国各地で地域に根ざした先進的な国際文化交流活動を行っている個人や団体を顕彰してきました。本賞は、2005年に「国際交流基金地球市民賞」に改称し、これまでに97団体が受賞しています。



＜授賞概要＞

●対象活動:

- ① 文化・芸術による地域づくりの推進: 日本と海外をつなぐ文化・芸術の交流を通じて、豊かで活気のある地域やコミュニティをつくる活動など
- ② 多様な文化の共生の推進: 外国人の多様な文化(言語教育を含む)を理解、尊重し、ともに豊かで活気のある地域やコミュニティを築いていこうとする活動など
- ③ 市民連携・国際相互理解の推進: 共通の関心や問題意識を通じ、日本と海外の市民同士の連携や相互理解を進める活動など

●対象団体:

公益性の高い国際文化交流活動を行っている日本国内の団体

●選考のポイント:

- ① 先進性: 国際文化交流活動の一つのモデルとして、他の団体の参考となる活動であること
- ② 独自性: 独自のアイデアを生かした活動であること
- ③ 継続性: 少なくとも3年以上、着実な活動をしていきていること
- ④ 将来性: 今後も着実に活発な活動が継続されることが見込まれること
- ⑤ 社会に対する影響力: 社会的な広がりや浸透力のある活動であること

●表彰:

受賞団体には、正賞(賞状)ならびに副賞(200万円)を贈呈

<2016 年度 地球市民賞受賞団体について> *以下、北から順

■受賞団体 1: **ノルテ・ハポン (コスキン・エン・ハポン開催事務局)**

～アンデス音楽の町「川俣」、フォルクローレが結ぶ地域の絆～

【所在地】: 福島県川俣町
 【代表者】: 代表 さいとう ひろゆき 齋藤 寛幸
 【設立】: 1975 年
 【ウェブサイト】: <http://www.cosquin.jp/>



<授賞理由>

1975 年、南米の民族音楽「フォルクローレ」の愛好家グループ「ノルテ・ハポン」がアルゼンチンの「コスキン・フェスティバル」にちなんで「コスキン・エン・ハポン」を立ち上げ、以来毎年フェスティバルを開催してきた。

なじみのない音楽は当初住民に受け入れられなかったが、子供たちが民族楽器「ケーナ」を習うようになり、1986 年 NHK 東北ふるさと賞を受賞すると徐々に浸透していった。1997 年に「ケーナの響くまちづくり実行委員会」がノルテ・ハポンのメンバーを中心に発足、教育委員会の依頼で小学校でケーナを教えるようになった。小学校で全員がケーナを習うようになったため、この町出身の若者の多くはケーナが吹ける。

1999 年には本場のフェスティバルへの優勝者派遣、住民によるアルゼンチンのダンス「チャカレーラ」のパレードが開始、現在は 180 グループ 1,300 人の出場者が 3 日間にわたって演奏し、10,000 人が集まる一大フェスティバルに成長した(川俣町の人口は 13,700 人)。優勝者が本場フェスティバルに参加するようになってから現地での知名度が上がり、近年はアルゼンチンなどから著名なプロのアーティストが自費参加するほか、駐日アルゼンチン大使館からも毎年出席があるなど、本場との交流も活発に行われている。

福島県浪江町にフォルクローレのグループがあり、「ノルテ・ハポン」のメンバーがケーナを教えていたが、2011 年の大震災以降分散避難を余儀なくされた。しかし月一度は集まって練習し、毎年欠かさず「コスキン・エン・ハポン」に出場している。フォルクローレを通じて地域の絆が維持された一例である。

このようにフォルクローレは地元の誇れる文化として地域の生活に定着している。町をあげて異文化と交流し受容してきた 41 年の歩みは国際文化交流による地域づくりの先進事例と呼ぶにふさわしい。川俣町山木屋地区が 2017 年 3 月に避難指定解除されるこの機に、交流の益々の発展と震災からの一日も早い復興を願って本賞を授与する。

<受賞団体からのコメント>



東北にある山あいの小さな町で 41 年前に始まった、地球の反対側にある国々の民族音楽の祭。当初全国から 13 チームの演奏家が集まった小さな音楽祭でした。今では、海外から多くのミュージシャンが出演する日本最大級の音楽祭に成長しました。文化には、小さな山あいの町からでも世界に発信する事が出来る力があるのです。この度、地球市民賞という大変大きな賞をいただき、ますます世界に発信して、小さな町を光輝くまちにしたいと思います。

■受賞団体 2: 一般財団法人 熊本市国際交流振興事業団

～外国人住民の拠点として熊本地震被災者を多言語支援～

【所在地】: 熊本県熊本市

【代表者】: 理事長 よしまる りょうじ 吉丸 良治

【設立】: 1993年

【ウェブサイト】: <http://www.kumamoto-if.or.jp/>



<授賞理由>

熊本市国際交流振興事業団は1993年に設立され、多文化共生、地球市民育成、国際化推進、国際交流会館管理運営事業を展開してきた。

多文化共生事業は、多言語相談窓口、多文化共生ソーシャルワーカーによる家庭訪問支援、医療通訳、日本語支援、外国人のための防災事業等からなっている。

多文化共生事業を支えているのは市民ボランティアと外部の専門家である。2015年現在1,136人のボランティアが登録しており、日本語支援事業などに参加している。また、多言語相談窓口(外国人コミュニティのキーパーソン等)、法律相談(弁護士会)、出入国管理・在留資格の相談(行政書士会)、医療通訳(医療通訳養成講座修了者)、日本語集中講座(大学教員)等において多様な専門家と連携・協力している。

本年4月に発生した熊本地震に際しては県内外からの応援者と協力して、災害多言語支援センターを開設し、災害情報の多言語翻訳、やさしい日本語へのリライト、避難所を巡回しての外国人被災者支援を行った。避難所巡回において外国人が抱える不安や心配を丁寧に聞き取りしてインターネットで支援を募り、ホテルや民間団体からハラルフードや炊き出しを得るなど、外国人のニーズに寄り添った支援を行った。また外国人住民側も同国人への情報伝達、高齢者への給水、炊き出しを行ったりと活躍した。

外国人住民も一体となった被災者支援が行えたのは、普段からボランティアとの協力による多文化共生事業を通じて外国人コミュニティと密接な連携を持っており、地域外国人の拠点として認知されていたからこそのことであった。

本事業団の災害対応は各地の国際化協会等の注目を集め、本年7月から11月までの間に全国19箇所で講演を行っている。このように本事業団の多文化共生事業は他のモデルとなるものである。災害多言語支援センターは11月末に活動終了となったが、外国人住民は依然様々な困難を抱えている。本事業団の多文化共生事業のさらなる発展と熊本地震からの一日も早い復興を願って本賞を授与する。

<受賞団体からのコメント>



2016年度国際交流基金地球市民賞をいただき大変光栄に存じます。熊本地震での外国人被災者支援活動には日本全国、そして世界各国の方々からたくさんの温かい励ましのお言葉をいただきました。外国人被災者の皆様による避難所運営や炊き出しへ協力、助け合いも生まれました。今回の震災は大変不幸な出来事でしたが、国境を超えた人と人の“つながり”が育まれました。この度の受賞の喜びは、そんな皆様方と分かち合いたいと存じます。

■受賞団体 3: 硫黄島地区会

～ジャンベのリズムがつむぐ硫黄島とギニア、そして世界との交流～

【所在地】: 鹿児島県三島村

【代表者】: 区長 やすなが たかし 安永 孝



<授賞理由>

鹿児島県三島村の硫黄島はギニアの伝統的な太鼓「ジャンベ」の島として知られている。硫黄島とジャンベの出あいは1994年、「ジャンベの神様」ママディ・ケイタ氏が来日した際、小さな村で子どもたちと交流したいと希望、村が受け入れたときにはじまった。以降毎年のようにケイタ氏が来訪、子どもたちがギニアを訪問するなど活発に交流を続けてきた。

2004年にはジャンベが学校教育に取り入れられ、島にジャンベスクールが建設された。2005年には県外からのジャンベ留学生の受入がはじまり、島の大人たちとともにジャンベを学ぶようになった。いまでは島の子どもたちと若者の多くはジャンベの心得がある。船が入出港の際はメンバーが港へ駆けつけジャンベの演奏で迎え送る。毎年8月にはジャンベのインターナショナルワークショップが開催され海外から多くの参加者がある。このように島の生活にジャンベは欠くべからざるものとして定着している。

硫黄島地区会は島民127人の自治会である。伝統行事の実施、神社の管理、ごみ収集などの生活インフラ、役場、学校、郵便局、駐在所など主要機関の連絡調整などを行っており、島の生活の要となっている。

ジャンベに関しても、日本唯一のケイタ氏公認指導者である徳田健一郎氏と二人三脚でスクールの運営(建物は村の所有)、ジャンベ留学生の受入(村の定住促進事業であるが、生活の世話は地区会が担っている)、インターナショナルワークショップの受入(参加者は地区会が実施する島の伝統行事に触れ、住民と交流し、地区会主催交流会でワークショップの成果を発表する)など、すべてを下支えしている。

今日ジャンベが島の文化として定着し、海外と活発に交流が行われていること背景には地区会、ジャンベスクール、島民が混然一体となってジャンベとジャンベを通じた交流を楽しんでいることがある。規模の小さい地域の国際文化交流のひとつのモデルといえよう。ジャンベを通じた国際文化交流の益々の発展を願って本賞を授与する。

<受賞団体からのコメント>

硫黄島は人口120名程の小さな島ですが、1994年、ジャンベの世界的奏者ママディ・ケイタ氏と出会ってから、地元地区会が中心となり、遠く離れたギニアとの交流を20年以上も継続しています。こうした地域レベルの国際交流活動に対し、栄誉ある「地球市民賞」を授与いただきましたことに、心より感謝申し上げます。ママディ・ケイタ氏をはじめ、ジャンベを通じて支えてくださった皆様に感謝申し上げますとともに、地元硫黄島地区会として地域レベルの国際交流に引き続き努めてまいります。